腎臓内科

（スタッフ）

部長　　：縄田　智子
嘱託医　：末永　裕子（2021. 4月から）
　　：山口　奈保美（2021. 3月まで）
　　：丸尾　美咲（2021. 2月まで産休・育休）
専攻医　：幸　奈菜（2021. 4月から）
　　：鈴木　智子（2021. 3月まで）

腎臓内科は2016年7月に膠原病・リウマチ内科と分離される形で設置され、2018年4月よりスタッフ3人体制となりました。実際の診療、回診・カンファレンス、研修医指導は引き続き膠原病・リウマチ内科と合同で行っています。2021年研修医は、1年次として柴田稔文医師（-1月）、西川匠医師（2-3月）、大嶋諒太医師（4-6月）、郡奈央医師（4-5月）、野嶋紗帆医師（7-8月）、佐藤実歩医師（10-11月）、萩原晟彦医師（12月）、福田貴仁医師（12月-）、2年次として山中茉莉夢医師（2月）、丸山莉果医師（8月）、児玉洋資医師（10月）、山下もも医師（11月）が研修を行いました。

（診療実績）

腎臓内科では内科的腎疾患の入院および外来診療と並行して透析室業務を担当しています。透析室での診療については別稿（P.81）に記載します。

外来は、2020年8月より外来棟1階にて診療を行っております。内分泌・代謝内科、膠原病・リウマチ内科と診察室が同一区画であるため、慢性腎臓病（CKD）、IgA腎症、ネフローゼ症候群など腎疾患としての連携がスムースに行えています。CKDに関しては、かかりつけ医の先生方との連携診療を基本とし、腎疾患の総合的評価、薬剤調整、管理栄養士による栄養指導を行っています。また、看護師、医療ソーシャルワーカーを含めた末期腎不全の療法選択支援など、多職種による治療介入を推進しています。

入院は、7階東病棟において腎生検、ネフローゼ症候群に対するステロイド療法、血液透析導入、急性腎障害の治療、CKD評価教育入院、などを行っております。2021年は新型コロナウイルス感染対応のために病院としては一般病床数の制限を要しましたが、逆に他院の入院制限により当院での診療を要請された入院もありました。

今後も外来・入院診療において各施設、各診療科との適切な連携を心がけたいと考えております。

表　入院患者内訳　（単位：件）

入院疾患分類	2018年	2019年	2020年	2021年
慢性腎臓病／慢性腎不全	80	79	80	96
急性腎障害	7	3	8	16
ネフローゼ症候群	22	32	24	23
IgA腎症／その他の糸球体疾患	16	17	11	23
急速進行性糸球体腎炎	1	12	11	11
腎尿細管間質性腎疾患	3	12	11	10
その他	20	28	30	28
入院件数合計	149	183	175	207
エコーガイド下腎生検件数	19	24	14	30
透析導入件数	53	46	43	48

（今後の方向性）

大分県は人口あたりの透析患者数が全国的にみて常に上位にあり、腎疾患の早期治療、進行予防が腎臓内科として必須の課題です。そのためには、かかりつけ医の先生方との円滑な連携と、院内での各診療科・多職種との密な連携が不可欠と考えます。今後も大分県における新規透析導入数の減少と腎疾患患者のQOL向上を目指して、質の高い診療を目標に努力してまいります。

（文責：縄田智子）